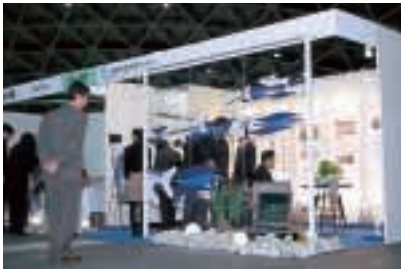


情報発信基地としての自然共生研究センター

環境の世紀ともいわれる21世紀を迎え、「循環型社会の構築」が世の中の合言葉として定着してきたようです。国土基盤の整備、管理の分野においても、新たな技術の研究開発・普及等を通じて時代の要求する新たなニーズに応えていくことが求められています。

従前より、広い範囲にわたる科学技術



自然共生研究センター・出展ブース / 建設技術フェア2000

進歩の成果を積極的に取り込みながら、それぞれの時代背景のもとで直面する課題の解決に大きく貢献してきた土木工学(シビルエンジニアリング=公共工学)。その新たなチャレンジのひとつが、普遍性、再現性、定量性を旨としてきたこれまでの工学の技術思想からするとともすれば扱いにくい存在だった生物の分野へのアプローチです。米国のマサチューセッツ工科大学で「生物学」が学生の必修科目になったそうですが、人間も自然界の一構成員であるというごくあたりまえの事実を踏まえた世界観、価値観がエンジニア教育の上でも重要視されてきたことの表れと言えるでしょう。

自然共生研究センターが岐阜県川島町にオープンして約2年半。この間、センタ

ーを訪れた方の数は記録のあるだけでも1万5千人を超えています。昨秋岐阜と東京で開催された第1回成果報告会は、いずれの会場も幅広い参加者の熱気に包まれ、この分野の技術に対する世の中の関心の高さがうかがわれました。また10月に名古屋で開催された建設技術フェアにおいても、センターの出展ブースに多くの来場者を迎えることができました。

自然共生研究センターは、多自然型川づくりを支える基礎的な知見をひとつずつ検証し積み上げていくための実験施設ですが、同時に土木工学の新たなチャレンジをわかりやすく世の中に発信する、いわばショールームとしての機能も大いに期待したいと思います。

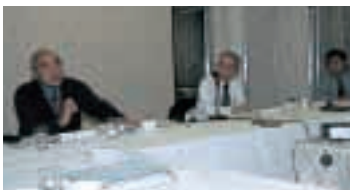
[国土交通省 中部技術事務所長 寺川 陽]

INFORMATION & NEWS

ARRCと読者を結ぶ広場

アドバイザー委員会が開かれました。

毎年、定期的に行われる研究アドバイザー委員会。今回は東京で行われました。関連分野の学識経験者からなるアドバイザー委員の先生方とセンターの関係者が集まり、今年度の研究成果や今後の研究の進め方について議論が行われました。この委員会の意見を参考にして、来年度からの研究課題が検討されます。



研究アドバイザー委員会

湯水前後の調査を行いました。

湯水による流量減少が生物の生息状況に与える影響を把握するため、実験河川の流量を5分の1程度まで減少させ、その前後について魚類や底生動物の生息状況などの生物面からの調査と、水深、流速などの物理面からの調査を行いました。



魚類調査の様子

水深・流速を測定

研究ゾーンを改修しました。

ワンド研究ゾーンでは水深の浅い部分の面積を広げる工事を行い、小さな魚が逃げ込むことができるスペースを確保しました。また、河岸開発研究ゾーンでは実験河川上流にあるハビタット研究ゾーンと同じように瀬と淵をつくり、実験河川の上流と下流との比較調査が行えるようにしました。



改修場所を撮影

図面の作成

自然共生研究センターではこの他にもいくつかの新しい取り組みを進行中です。

実験河川は自由に見学することができます。また、研究棟の図書室では全国から集められた川の資料を閲覧することができます。ぜひ見学にお越しください。



多自然型川づくりや河川環境教育に関する資料やビデオ

自然共生研究センター AQUA RESTORATION RESEARCH CENTER

〒501-6021 岐阜県羽島郡川島町笠田町官有地無番地
Tel 058689-6036 Fax 058689-6039
URL <http://www.pwri.go.jp/>

自然共生研究センターの英訳は Aqua Restoration Research Center 略してARRC。この略称の発音が期せずして Noah's ark(ノアの方舟)と同じになった。

発行: 独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター
ARRC NEWS No.2 2001年4月

100 古紙配合率100%再生紙
を使用しています。



交通のご案内

自動車をご利用の場合
東海北陸自動車道岐阜各務原ICより10分
(研究棟へは河川環境楽園・西口駐車場が便利です)
川島PAより徒歩で来ることができます。

電車をご利用の場合
名鉄新名古屋駅または新岐阜駅から笠松駅へ笠松駅からタクシーで10分
(笠松駅からの交通はタクシーのみです)